

<奨励賞 5団体>

■ 特定非営利活動法人 あめんど (滋賀) / 20万円

「足場を固めてふんばる作戦 ～子どもたちを支えるために～」

<p>団体概要</p>	<p>発達障がいスペクトラム（コミュニケーションが困難で、限定された反復行動、興味を持つ症状）や近隣のコミュニケーション上の、または感覚上の諸特性のために円滑な社会参加が妨げられている子どもとその家族に対し、安心して社会参加できる環境を構築するため活動を行っている団体。</p> <p>2003年に母親たちが集まって子育てサークルを始め、2004年に「あめんど保育園」を設立、2011年にNPO法人を取得した。</p> <p>子どもは安心できる環境の中でこそ正しく学習し、成長するもの。親身になって悩みを共有できる仲間を通して、発達障がいに関する相談や学習をはじめ、子育て、青少年育成、ニート、子どもの貧困対策などの支援事業の他、農業や自然体験活動、キャンプ、英会話など親子で楽しく学べるイベントなどを具体的に企画している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子どもを支援していくためには、まずは周囲の大人が必要な助けを受けて元気になる場、正しい知識や理解が必要と考え、子ども食堂の開設にあわせて保護者を対象としたサロンの開設、及び、保護者だけでなく子どもの居場所づくりに関わる支援者やボランティアのエンパワメントを目的とした学習会の開催を内容としている。</p> <p>具体的には、子ども食堂時の「交流スペース」の設置（週1回）、学童期保護者を対象としたティーサロンの開催（週1回）、個別相談窓口の開設（随時）、支援者・ボランティア学習会を開催する（月1回）。</p>
<p>講評</p>	<p>当事業は、子ども支援の実践から見えてきた課題である、「保護者」と「支援者」の問題に対して、地域の学校や大津市の子ども家庭相談室、学校配置のスクールカウンセラーやソーシャルワーカーとの連携を取るなど、さまざまな地域の担い手たちと連携して、課題解決に向けた取組みを行おうとしている。審査委員会では、事業の「社会性」に加え、適切な専門部署につなげることによる課題解決に向けた「実現性」も高いと評価した。</p> <p>本アワードの助成によって、これまでの活動を深化させ、団体の地域における役割の拡大を期待したい。</p>

■ こうべ子どもにここ会（兵庫）／20万円

「外国につながる子どもたちを支えるための日本語教室の開催と地域連携による環境整備」

<p>団体概要</p>	<p>主に東灘地域に住む多様な文化的・社会的背景を持った子どもたちとの日本語・教科学習、母語教室を通じて、子どもたちが、アイデンティティを保持し、自分自身や自文化に対する誇りを持てる環境づくりをめざし活動を行っている団体。</p> <p>1995年の阪神淡路大震災をきっかけに東灘日本語教室を立ち上げたが、その後、日本語支援だけでなく発達段階に応じた支援や教科学習支援、母語支援など、学校・保護者・地域住民・担当行政と連携しながらの総合的な支援が必要となり、日本語教室から独立して2002年にNPO法人として当団体が設立された。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業では、現在行っている日本語教室やスペイン語母語教室の他、読書力を測定し考える力を養成するための「多言語対話型読書力評価」に応じた支援内容への反映を通して、学校・家庭・地域といった子どもたちの生活環境を繋ぎ、子どもたちの居場所をつくり、「生きる力」を養成することを内容とする。そして、子どもたちが抱える「親子間のコミュニケーション不全」「不登校」「高校進学」などの、現在そして将来的な課題の克服をめざしている。</p>
<p>講評</p>	<p>当団体は10年以上かけて上記の課題に取り組み、2002年から外国につながる子どもたちを対象に小学校内での放課後日本語・教科支援教室を実施してきている。そのような取組みの積み重ねの中、地域の社会福祉協議会やコープともしび振興財団などとの関係も築き、学校・住民・自治体とも協働しながらの取組みであり、審査委員会では、本事業の「社会性」や「実現性」「継続性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成によって、子どもたちを地域で支える体制を強固にし、安定した支援が継続して行われることを期待したい。</p>

■ 神戸・灘おもちゃの病院（兵庫）／20万円
「神戸・灘地域でのおもちゃの病院事業」

<p>団体概要</p>	<p>おもちゃの修理を通して、子どもたちに物の大切さと愛着心を伝え、科学する心を育むといった、地域社会に貢献する活動を行っている団体。</p> <p>壊れたおもちゃを直すことは、ゴミ減量・リサイクルにつながっており、またこの活動の輪を広げることは、おもちゃドクター側であるシルバー世代の居場所づくりにも寄与している。</p> <p>尼崎おもちゃ病院でノウハウを学び、2015年3人の仲間とともにボランティアグループとして立ち上げた。</p>
<p>事業概要</p>	<p>現在、月4か所で、おもちゃ病院を開設している。本事業では、さらに西宮で1か所の開設と、ぬいぐるみ等の内部構造を見るためのファイバースコープ等の検査機器の購入、初級ドクター養成講座の開催や先進病院との交流を計画している。そして、ドクター50名をめざすとしている（現在22名）。</p> <p>おもちゃの病院の特性として修理できるおもちゃを増やし、さらに修理の精度を上げることで、活動の広がりをめざしている。本活動の広がりにより支え手が増え、さらなる担い手を育成することに注力することができれば、より多くの子どもたちに、おもちゃ修理を通じた「ものを大切にする心」「科学する心」を育むことができる。</p>
<p>講評</p>	<p>おもちゃの修理を通じて、楽しみながら“治療不可能”を一つでも減らして、子供の笑顔を増やすこと、子どもとシルバー世代を繋ぎ、地域のコミュニティの再生や、居場所づくりにも寄与していること等、「共感と市民参加」が高く評価された。</p> <p>3人から始めた当事業は、既に22人のメンバーとなり、手芸グループとつながりを持ち始める等、広がりを見せつつある。本アワードの助成をきっかけに、さらなる取組みの輪を広げ、子どもたちをはじめ、地域が笑顔になるコミュニティづくりに尽力いただきたい。</p>

■ チェンジングライフ（大阪）／20万円
「生活拠点を失った少年の自立促進事業」

<p>団体概要</p>	<p>未成年でありながら虐待や一家離散、親の引き受け拒否等が原因で、帰住先（生活拠点）を失った非行少年の社会的孤独と貧困に対し、当事者と協力者の知恵と経験を用いて、非行からの離脱と再非行防止を阻む脅威を阻止し、未来ある子どもたちに社会的居場所と自立しやすい環境づくりを創出する活動を行っている団体。</p> <p>非行当事者であった代表が、「子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会づくり」に寄与したいとして、生活拠点を失った少年を主な支援対象として、2011年にNPO法人として立ち上げた。</p>
<p>事業概要</p>	<p>家庭環境に問題があり、児童養護施設の入所を余儀なくされた子どもが一旦非行に走ると施設を退所となり、行き場を失ってしまう。</p> <p>本事業は、そのような子どもたちの居場所をつくり、伴走型の支援を行うことで、少年たちの就労意欲や社会適応・進出につなげる内容。具体的には、弁護士やケースワーカーと共に福祉や支援につなげる橋渡しを行う、住居の確保後は食材提供・家庭訪問・外出レクレーション等の居場所づくりを通しての孤立防止・就労意欲と社会進出の意欲を高める支援を行うとしている。</p>
<p>講評</p>	<p>子どもの貧困対策というテーマにおいて、当団体の取り組んでいる非行少年の自立支援の活動はあまり見られない。審査委員会では、当事業の支援対象である非行少年の支援の重要度や、当団体が弁護士、福祉関係者、地域とのネットワークによって課題の解決を図ろうとしていることなどに着目し、当事業の「社会性」「効果と発展性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成によって、非行少年の自立支援への理解が社会に広がり、ひとりでも多くの少年の自立が進むことを期待したい。</p>

■ 認定特定非営利活動法人 箕面こどもの森学園（大阪）／20万円
「親子の土曜クラス『そら』～こどものじかん、わたしのじかん～」

<p>団体概要</p>	<p>義務教育ではカバーしきれない体験学習やライフスキルトレーニングといった子どもたちがいきいきと学べる学校づくりを通して「持続可能で民主的な社会をめざすこと」をミッションとし、子どもの興味・関心を学習の中心に置き、子ども一人ひとりの個性を尊重しながら、知性・感情・創造性をのびやかに育てるオルタナティブ・スクールを運営している団体。</p> <p>学生の学習意欲の乏しさに問題意識を持ち、「子どもの主体性を尊重する自由な学校をつくりたい」と、1999年に同じ思いを持つ市民と「大阪に新しい学校をつくる会」を立ち上げ、2003年10月にNPO法人を取得し、本格的な生徒募集を開始した。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、大人だけが頑張る子育て相談サロンとは違い、子ども自身に自主性を持ってもらいながら、大人も安らぐ時間を提供しつつ交流し合うコミュニティの構築を目的としている。</p> <p>具体的には、「こどものじかん」として外遊びや自然と触れる経験を通じた主体性のはぐくみ、「おとなのじかん」として子育てに関する学びやピアサポートの時間を過ごすプログラムが主な内容。各期15組程度の参加を想定し、将来的には運営に携わってもらう保護者の開拓、及び同様の取組みの広がりも期待したいとしている。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、子どもと大人どちらかではなく、どちらも自立した時間を過ごすことができるというプログラムであり、子どもの主体性の尊重を第一にしながら大人自身が自分を見つめなおすための「創意工夫」が図られている点に審査委員会は着目をした。また、専門的な有資格者をスタッフとして従事しており、近隣のボランティアとも協働している点について、「継続性」や「市民の主体性」が高いものであると評価した。</p> <p>本アワードの助成をきっかけに、このような取組みが、課題解決に向けたモデル事業として広がっていくことを期待したい。</p>

(50音順)